

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

9月号 発行 平成24年9月28日



東日本大震災関連



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の8月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した12品目68検体のうち、8品目63検体は検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、4品目(オヤマボクチ、ミョウガ、イチジク、菌床しいたけ(施設))の5検体、基準値を超えたものはありませんでした。品目としては、小麦4検体すべて、日本なし5検体すべて、畜産物・原乳の51検体すべてにおいて検出が認められませんでした(表1、2)。9月20日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、たけのこ、ぜんまい、たららの芽(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)となっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。また、この調査結果は、地産地消推進店、地域産業6次化ネットワーク会員、グリーン・ツーリズム関係者などにお知らせしています。

(表1) 農林畜産物の調査結果(8月)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
8品目 63検体	4品目 5検体	0	12品目 68検体

(表2)

1点も放射性物質が検出されなかった品目と検体数

・オクラ 1	・小麦 4
・カボチャ 1	・牛肉 4
・ニガウリ(ゴーヤ) 1	・豚肉 2
・日本ナシ 5	・原乳 5



農産物販売キャンペーンを実施しました

残暑厳しい8月31日(金)、9月1日(土)の2日間、「がんばろう ふくしま!」運動の一環として、今年度、第3回目となる農産物販売キャンペーンをマルトショッピングセンター草野店において実施しました。

2日間とも買い物客で賑わう16時から18時の2時間、くじ引きの抽選により各約200個のサンシャインいわき梨をプレゼントしたほか、県産農産物のモニタリング調査による安全性や「ふくしまの恵みイレブン」()が描かれた子ども向けの下敷きの配布をして、PRしました。

出荷・摂取制限等に係る暫定規制値を超えていない県産農産物に対しても消費者の信頼が回復しておらず、消費が停滞している現状にあります。子ども連れの主婦の参加も多数あり、当選者は、地元のナシを喜んで受取っていました。

なお、今年度の福島県のナシは、食品衛生法の基準値を超えた放射性物質は検出されていません。

第4回は、10月20日(土)に、県産米のPRを予定しています(実施店舗は、未定)ので、みなさんの応援をよろしくお願いたします。



(「恵みイレブン」のナシが当たりました!)



(子どもたちにも好評でした)



(配布された下敷き)

福島県の農林水産業の豊かな恵みを象徴し、ふくしまの顔としてブランド確立を図っている米、日本ナシ、もも、地鶏、福島牛等11品目の農林水産物。



「いわき・ふれあいの泉」 で野菜の収穫祭

9月4日(火)、好間町上好間忽滑(ぬかり)にある上好間団地集会所で、ふくしま災害コーディネーター支援センター主催の収穫祭が行われました。このイベントの目的は、好間地区の応急仮設住宅にお住まいの方々をお誘いし、県立好間高校近くにある遊休農地を使った農園「いわき・ふれあいの泉」で育てた夏野菜を一緒においしく食べて交流することでした。

当日の朝、「いわき・ふれあいの泉」の耕作者のほか、ふくしま災害コーディネーター支援センターのメンバー、合わせて7名が参加して農園で収穫をしました。収穫したのは花オクラ(トロロアオイ)、オクラ、モロヘイヤ、ツルムラサキで、前日に雨が降ったこともあり、花オクラは、300個以上の花が咲いていました。花オクラは、花の部分を食べる野菜で、一日花であるため市場にはほとんど流通しません。収穫に参加した方は、「初めて見る野菜だ。」と珍しそうに花オクラを摘んでいました。

次に上好間団地集会所に移動し、採れたての野菜を使って天ぷらや酢の物などの料理を作りました。花オクラは、下処理としてがくの部分を取り除きますが、とげがあるため、けがをしないよう丁寧に作業しました。できあがった料理は、好間の応急仮設住宅にお住まいの方々15名も一緒に味わい、「衣のサクサクと花のとろっとした食感が絶妙。」「粘りけが癖になる。」と初めて食べる花オクラの天ぷらと酢の物に舌鼓を打っていました。



(かごいっぱい花オクラを収穫)



(花オクラの天ぷらに舌鼓)

一般情報



「JAいわき市設立 20周年記念式典」が 開催されました

8月22日(水)、スパリゾートハワイアンズにおいて、関係者ら約200人が出席し、JAいわき市設立20周年記念式典が開催されました。

式では、始めに甲高経営管理委員会長から、「東日本大震災等の試練を、組合の団結・連帯を確認し、信念を持って乗り越えていきたい。」とあいさつがありました。

その後、招待者の祝辞があり、続いて組合の発展に貢献した16名の功労者表彰が行われたほか、平成5年3月設立以来の組合の歩みと記念事業が紹介されました。

関連行事として、9月14日(金)にはいわき芸術文化交流館アリオスにおいて、県立磐城農業高校の生徒による発表とタレントの高木美保さんの講演会が開催されました。

県立磐城農業高校の発表では、「復活！いわきの梨～規格外梨でなしジャムに～」「見せます！いわきサンシャインカレー」と題していわきならではのジャムやカレー

を作るに至った経緯や苦労話が披露され、観客のみなさんは感心して聞き入っていました。

高木さんは、「命を感じる暮らし」と題して講演し、タレントとして活動していくうえでいろいろ悩み、心のよりどころとして行き着いたところが農業であること。幼い頃、伊達市の親戚の家に遊びに行った時の農業体験や、現在取り組んでいる米作りを通し、人として命の大切さを知り優しさを会得することができたとの話等をユーモアを交えて紹介しました。

また、14日(金)と15日(土)には、平体育館で農業資材等展示会が開催され、約30のブースに農業資材、生活資材や農薬・肥料などが並び、多くの来場者で賑わいました。

展示会には県のブースも設けられ、「放射性関連課題の成果」に関するパネル20点を掲示し、県が実施している除染の取組等についてPRしました。来場者からは土壌から野菜等への放射性物質の移行程度や食べ物の放射性物質の検査ができる場所はどこかなどの質問があり、放射能に対する関心の高さが感じられました。



(甲高会長のあいさつの様子)



(高木美保さん講演の様子)



平成24年度 「いわき地方グリーン・ ツーリズム推進会議」 を開催しました

9月7日(金)、県いわき合同庁舎において平成24年度いわき地方グリーン・ツーリズム推進会議を開催しました。

実践団体、行政機関等14団体が出席し、各団体の今年度の取組実績及び計画についての報告の後、福島県観光交流課の穂住総括主幹兼副課長から福島県の観光施策等について説明がありました。各団体は、東日本大震災により停滞を余儀なくされた活動は再開しているものの、震災以前ほどの実績に戻らない現状には苦心しており、県の観光施策に熱心に耳を傾けるとともに活発な意見を出していました。

意見交換会では、各団体が抱えている問題についての質疑応答や意見・要望、イベント等の情報交換があり、グリーン・ツーリズムの推進は実践団体が主体であることや、活動の継続、いわきの現状の姿を情報発信することが重要であることを改めて確認しました。

県では、引き続きグリーン・ツーリズムの確立の推進による地域の活性化を支援することにより、魅力ある農山漁村の形成を図ることとしています。

グリーン・ツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。



(観光交流課を交えた会議状況)



(多くの意見が聞かれました)



「ごちそう ふくしま 満喫フェア2012」が 開催されました

9月8日(土)、9日(日)の2日間、ふくしま・地域産業6次化推進協議会と県が主催する食の祭典「ごちそう ふくしま満喫フェア2012」が郡山市のビッグパレットふくしまで開催されました。

このイベントは、福島県の豊かな自然に育まれた農林水産物を原材料に、“浜通り”“中通り”“会津”のそれぞれの地域の特色を生かして生み出された6次化商品などの「食の魅力」を発信し、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故に伴う風評被害から復興を目指すことが目的でした。

東日本大震災以前、平成22年度も含め今回で3回目になる本フェアには、今回過去最大の202店舗の参加がありました。いわきからも21店舗が参加し、それぞれの店が自慢の6次化商品を販売しました。

2日間、多くの店舗に途切れることなく長い行列ができ、たくさんの方が目当ての6次化商品を購入していました。

また、会場には、1,000席以上の飲食席が設けられましたが、買い求めた商品を味わう人々で常に満員でした。特に6次化商品をおいしそうに味わう家族連れの姿が数多く見られました。

屋内、屋外の両方に設けられたステージでは、タレントの山口智充さんやみちのくボンガーズのライブ、それいけ!アンパンマンショーなど様々な催しが行われ、フェアを盛り上げました。

ごちそうふくしま満喫フェア2012は、福島の食の魅力と数々の楽しいイベントの魅力により2日間で4万8千人の来場があり、大盛況のうちに幕を閉じました。



(開会式の様子)



(多くの人
で賑わう様子)



「田んぼの学校」 かかしづくり

「田んぼの学校」とは、『「ふくしまの農育」推進事業』の一環として、一年間を通して主に米づくりに関わる仕事を体験する環境教育事業で、本年度は、いわき市立赤井小学校と連携し、主に5年生児童65名を対象に実施しています。

9月12日(水)、今年度第4回目の活動としてかかしづくりを行いました。

活動では、児童たちが6つの班に分かれ、それぞれ児童のアイディアを基に、各班1体、全部で6体のかかしを製作しました。

縦200cm、横100cmの棒を十時に組み合わせてかかしの骨組みとし、装飾として各家庭で不要となった衣類を持ち寄るなどして作られた6体のかかしはどれも個性的で、児童たちも自分たちの作品の出来にとっても満足していました。

製作したかかしはすぐに学習田に設置され、さっそくスズメたちを追い払う役に就きました。



(かかしづくりの様子)



(完成したかかしと児童たち)



「いわき市児童生徒 木工工作コンクール」 が開催されました

9月15日(土)から16日(日)の2日間、木の良さを再発見するとともに、児童生徒の造形能力の発達を目的とした「第18回いわき市児童生徒木工工作コンクー

ル」の作品展示会が、福島県木材青壮年協会いわき支部の主催、磐城流域いわき地区林業活性化センターの共催(いわき市後援)により、ヨークベニマル谷川瀬店2階催事場で開催されました。

コンクールにはいわき市内の小学校31校より911点の作品の応募がありました。展示会に先立ち行われた審査会の審査の結果、工作技術やデザインに優れ、木の持つ質感が活かされた、いわき市立草野小学校絹谷分校2年生の芳賀千夏さんの作品「トトロの森」といわき市立小名浜東小学校6年生の鈴木嘉英人さんの作品「福島 心をひとつに いわき踊り!!」がいわき農林事務所賞に選ばれました。展示会には、応募作品の中から306点が展示され、親子連れや買い物客が来場し、自然木の風合いを取り入れた作品や独創性に優れた作品に見入っていました。

このコンクールの優秀作品については、福島県児童生徒木工工作コンクールに推薦され、10月19日(金)に開催される審査会に出品されます。



芳賀千夏さんの作品
「トトロの森」



鈴木嘉英人さんの作品
「福島 心をひとつに いわき踊り!!」

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>
E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp

